



炉端の会
2018.12

「炉端の会」のひとり言-1

◇10月25日、13期散策会の園外催しが行われました。

多摩センター駅に集合（参加者12名）して、広大な多ニュータウンの中を好天にも恵まれ少し早い紅葉を見ながら「縄文の村」を訪れ、その後「一本杉公園」で古民家2棟（旧加藤家、旧有山家）を見学し「多摩中央公園」の古民家（旧富澤家）では、床上まで上がらせていただきました。



13期散策会に参加された方々「縄文の村」にて

その後、歴史ミュージアム等を訪れて、多摩センター駅で解散しました。

多摩の横山の古道を歩き往時を忍ぶことも出来ましたとの事です。

◇10月30日、ウーロンゴン市長が旧作田家を訪れました。

「炉端の会」会員が作田家で火を焚き始めたところに突然、民家園園長の案内で川崎市と姉妹都市の「ウーロンゴン市長」一行が訪れました。通常のお客さんと同等に接していただき、気さくに囲炉裏端談義をしました。その後、一行は、佐々木家で行われる姉妹都市提携30周年記念の交流コンサート「～古民家で聴く邦楽器の調べ～」を聴きに行かれました。

オーストラリア・ウーロンゴン市とは、昭和63(1988)年5月から姉妹都市提携以来、音楽をはじめ文化芸術の交流や市民相互の理解と親善を深める交流を行っています。

この度、姉妹都市提携30周年を記念して、両市の一層の交流と友好親善を深めるための交流コンサートを開催。

(川崎市HPより抜粋転記)



ウーロンゴン市長一行との囲炉裏端談義の様子



「炉端の会」のひとり言-2

◇平成30年度 「炉端の会」 園外研修旅行 「九十九里浜・旧作田家と房総のむらを訪ねる」。

今年の研修旅行は「九十九里浜・旧作田家と房総のむらを訪ねる」として旧作田家があった九十九里町と成田市の近郊にある「房総のむら」を訪問しました。

今年の参加人員は120名となったために、同一行程で11月8日(木)、13日(火)、14日(水)の3グループに分けて実施しました。

具体的な行程として右の地図で右下に位置する九十九里町では①作田家の在をバスの中から遠望、②作田家の近くにある「伊能忠敬記念公園(伊能忠敬が生まれた場所)」、③「いわし資料館(海の駅九十九里に併設されている)」を見学、④「国民宿舎サンライズ九十九里」で九十九里御膳(イワシが主体の食事)をいただいた後、売店で適宜、お土産の購入などをしました。

昼食後、右の地図では左上の方、成田市の郊外にある⑤「房総のむら」に移動し国の重要文化財である御子神家住宅や県文化財である平野家住宅をガイドの方に説明をして頂きながら見学をしました。古民家見学後は房総のむらを各自で自由に散策しました。

第1グループ、第2グループはほぼ順調に見学などを行い18時半前には登戸に到着しましたが、第3グループは首都高の事故渋滞などに巻き込まれ、「伊能忠敬記念公園」の見学はキャンセルとなり、登戸への帰着も19時頃となってしまいました。

(園外研修旅行実行委員の方々、お疲れ様でした)



第1グループ11/8(平野家にて)



第2グループ11/13(御子神家にて)



第3グループ11/14(平野家にて)